

令和 6 年度

**第 2 回小樽市議会「市民と議員の懇談会」
実施報告書**

参加対象：市民公募

日 時：令和 6 年 1 1 月 1 6 日（土）午後 2 時から
会 場：いなきたコミュニティセンター
4 階 1 号室・2 号室・3 号室

小樽市議会

令和 6 年度第 2 回小樽市議会

「市民と議員の懇談会」

日時：令和 6 年 1 1 月 1 6 日（土）14 時

場所：いなきたコミュニティセンター 4 階

次 第

- 1 開会
- 2 議長挨拶
- 3 議員自己紹介（資料を配布）・・・ P 2 を参照
- 4 意見交換・懇談（5 班に分かれてのワークショップ）
- 5 ワークショップでの結果発表
- 6 副議長挨拶
- 7 閉会

} P 3 ～ 1 1
を参照

※参加者へのアンケート結果 P 2 0 を参照

懇談会の様子



開会あいさつ



2班



3班



1班



4班



5班



小樽市議会議員名簿

写真
議席番号 氏名
所属会派
所属常任委員会

(正) は委員長、(副) は副委員長

【議長】



22鈴木 喜明
自由民主党
-

【副議長】



11秋元 智憲
公明党
建設常任委員会

1 班



7 平戸 理史
みらい
経済常任委員会



9 橋本 布美絵
公明党
厚生常任委員会



12松岩 一輝
自由民主党
総務常任委員会(正)



17面野 大輔
立憲・市民連合
建設常任委員会(副)

2 班



1 新井田 邦宏
公明党
経済常任委員会



4 酒井 隆裕
日本共産党
厚生常任委員会(副)



13中鉢 淳二
自由民主党
建設常任委員会



16下兼 薫
立憲・市民連合
厚生常任委員会



19小池 二郎
みらい
総務常任委員会(副)

3 班



2 白川 貴城
公明党
総務常任委員会



6 小貫 元
日本共産党
経済常任委員会



8 白濱 聡
みらい
建設常任委員会



18高橋 龍
立憲・市民連合
厚生常任委員会(正)

4 班



3 松井 真美子
日本共産党
総務常任委員会



10横尾 英司
公明党
経済常任委員会(正)



14佐藤 奈緒美
自由民主党
厚生常任委員会



21前田 清貴
みらい
建設常任委員会(正)



24中村 誠吾
立憲・市民連合
経済常任委員会

5 班



5 高野 さくら
日本共産党
建設常任委員会



15中村 吉宏
自由民主党
経済常任委員会(副)



20中村 岩雄
みらい
厚生常任委員会



25佐々木 秩
立憲・市民連合
総務常任委員会

第2回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和6年11月16日 午後2時

開催場所：いなきたコミュニティセンター

参加者：公募市民（参加者数27名）

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり

「これからの小樽に必要なものは」

【ワークショップの概要】

ワークショップ：1班	議員：4名
ワークショップ会場：1号集会室	市民：6名
ワークショップで出たやり取り（個別要望・提案） ◇出産するが少ない、市はやる気あるのか、市の真剣度が無い、市立病院に産科がない ◇おたるファミサポの無料券を石狩市は配布している ◇放課後児童クラブの時間延長、札幌はできているのに ◇小樽市はお金もないし、企業もないし、やる気もないから、意見を言っても仕方ない雰囲気がある ◇駅前第一ビルのミニ図書館と子どもの遊び場スペースの取り組みを地域ごとにできないものか ◇尾道市のガウディハウス（古民家をリノベーションした尾道の空家再生のシンボル）を参考に。 ◇希望者に市内の空家ツアーをしてみてもどうか。 ◇大学の無償化が必要。進学にはお金がかかる。 ◇小樽に住む理由がないし、交通の便が悪い、子ども預けサービスが18時で終わる、全て札幌で賄える ◇公務員や市議会議員は上の立場にいるから、市民の暮らしがわかっていないのではないかと思う ◇いずれ介護を受ける立場になるが、これから小樽で住み暮らせるのかと心配・ ◇こんなに不便で仕事がなく、行政のやる気がないと、人口が増えるわけがないし、増やそうって何を言っているのだろうかと思う ◇小樽に魅力がない、市民の満足度は高くないと思う ◇小さなことでもいいからやってみようという市民活動、市政運営、小樽市は教育にお金をかけていない ◇若い人の意見を汲み取ってほしい ◇とにかく小樽は高齢者が多い、若者、子どもに予算が行くようにする ワークショップのまとめ 総務関係 ・広報おたるに掲載しても、若い人は新聞を購読しないから見ない、情報が受け取れるような仕組みづくり ・児童の虐待死は防げたのではないかと ・立地適正化計画の市民理解について 経済関係 ・就職先がなくて市内就職が進まない、若者を留められるような中堅企業が少ない 建設関係 ・バスの減便が続く中、外出してというのは難しい、運転手の確保、賃金を上げる方策について 厚生関係 ・子育て支援の充実を希望。親の育児の不安やSOSを受け取る、発信する場が欲しい ・子育て支援ワーカーズを小樽にも必要	

第2回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和6年11月16日 午後2時

開催場所：いなきたコミュニティセンター

参加者：公募市民（参加者数27名）

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり

「これからの小樽に必要なものは」

【ワークショップの概要】

ワークショップ：2班 ワークショップ会場：1号集会室	議員：5名 市民：5名
ワークショップで出たやり取り（個別要望・提案） ◇人手不足なのに働き手は小樽の外に出てしまう。 ◇働く場所が少ない。若い世代が残れる仕事があると良い。 ◇札幌との賃金格差、家賃格差の解消。 ◇フェリーによる来訪者の市内滞在時間を延ばす取組み。 ◇小樽の観光的な魅力をもっと発信してほしい。 ◇親の仕事の時間が増え、子どもの教育について親が考える余裕がない。 ◇先の小学校女子児童の案件は痛ましかった。学校の対応はどうだったのか。 ◇児童館を増やしてほしい。 ◇病児保育の拡充。 ◇子育てにはお金がかかる。もっと子育て世代への応援をしてほしい。 ◇小中学生や子どものバス料金が無料になると出かけやすくなる。 ◇雪が降る時期がずれて早まっている。無料ダンプの利用時期の前倒しを。 ◇遊び場の充実。親が遊ばせたいと思う公園がない。天候に関係なく遊べる公園がほしい。 ◇公共交通が不便。JR小樽駅までの利便性の確保。 ◇空き家の活用。 ワークショップのまとめ 総務関係 ・共働き世帯が増え学校PTA役員のなり手が不足している ・経済関係 ・ITなどの非労働集約型産業の誘致。 ・小樽を象徴する特産品がほしい。官民連携をして考えてはどうか。 厚生関係 ・病児保育を充実させてほしい 建設関係 公共交通が不便。JR小樽駅までの利便性の確保 その他 ・今の若者は「推し活」があると元気になる。周りの人までも元気にしてしまう。小樽にも推し活なるもの	

があれば良いのに。例えば北広島市のボールパークなど。

・テーマが固い。「子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり」ならば今、子育てをしている市民の声を多く聞くべきだ。子供連れでも参加できる仕組みを。

発表内容は上記の通り

第2回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和6年11月16日 午後2時

開催場所：いなきたコミュニティセンター

参加者：公募市民（参加者数27名）

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり

「これからの小樽に必要なものは

【ワークショップの概要】

ワークショップ：3班 ワークショップ会場：2号集会室	議員：4名 市民：6名
ワークショップ（個別要望・提案） ◇子どもを大切にしてほしい（給食、保育料など）。明石市はいろんな面で力を尽くした。産業はないが、隣に神戸市があるので若い夫婦が子育てに来て、店も盛り上がり人口も増えた。子供にかかるお金が軽減することは良いこと ◇年配も大切にしてほしい ◇会社を経営しているが、遠いところは千歳や余市から来ている。その理由は出産・子育て支援が不十分に感じる。住居の駐車場が不十分なので小樽に住まない、住みやすさがない ◇市内の大きい公園の整備、手宮公園緑化園が荒れている ◇手宮陸上グラウンド近くに高射砲台がある、空襲被害があったがその資料館があるとよいのでは ◇銭函エリアの人口が増えていることから、観光キャッチフレーズで銭函を「北海道開拓発祥の地」として売り出してはどうか ◇山の上の住宅地には除雪が入らない。通学路（歩道）の除雪がされていなくて危ない ◇小樽に移住したいと思うには観光して魅力を感じたらよいと考える。本市の美術館はどこにあるのかわかりづらい。その点、石狩市はわかりやすい。文化振興の点で豊かさを出してはどうか。空き家も多いのも利用して移住が楽になるような気がする。既に引っ越してきた方が、景色が良いと言ってくれる。観光が移住の入口となる。移住促進に向けた補助があればよいのではないか ◇広報おたるを楽しみにしているが、民間同士のイベントなどで、広く周知される事前のお知らせがあればよい（マスコミ報道も含めて）。それがあつて市民が外に出るきっかけとなるのではないか ◇空き家を市が借り上げて貸すのはどうか	
総務関係 ・市職員は市内に居住することを条例として定めてはどうか。何かあつたときに市内に居住していないと対応の遅れにつながる可能性がないか。市税確保、人口市外流出防止のため ・観光振興と空き家を関連付けて移住促進に向けた補助があればよいのではないか	
経済関係 ・昔は造船所が11軒あつた。1軒閉業すると関連企業も立ち行かなくなり、その分の人口がいなくなった（換算すると600人程度になった）ことから、零細企業への協力が必要 ・150年前は夕張石炭鉱の積み出し庫として本市は発展した。これからは得られたもので発展するのではなく自	

分たちで国家プロジェクトになるような企画を作り出してはどうか（塩谷地域では農業を、銭函地域では鰻の養殖等）。

厚生関係

- ・共働きが多いため保育所を大切にしてほしい。市内に5ヶ所公立保育所があり、子供が増えるのは地域としてもうれしい。公立保育所を公立のまま残してほしい。保育所に近い職場で保護者が働くこともあるため

建設関係

- ・除排雪体制が不十分、昔は重箱をつつく感じだったのが、今はさらっとやって排雪回数も少ない。それが原因で引っ越した人もいる。対策強化を求めたい

発表内容は上記の通り

第2回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和6年11月16日 午後2時

開催場所：いなきたコミュニティセンター

参加者：公募市民（参加者数27名）

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり

「これからの小樽に必要なものは」

【ワークショップの概要】

ワークショップ：4班	議 員：4名
ワークショップ会場：4号集会室	市 民：大人5名 小学生1名

ワークショップで出たやり取り（個別要望・提案）

◇地場産業の集中と選択（市と民間の連携）

◇町会会館の利便性

◇議員の若年例化を条例化

◇教育環境、所管の見直し（幼稚園など小学校など小学校入学前から一貫とした方が効率が良い）

◇博物館などの市の観光施設について、繁忙期は定休日設けない

◇市外からの転入手続きの際にゴミ袋などでもよいので配布する（苫小牧市は転入の際におもてなし係の職員が案内）

◇鉄道の歴史をもっとアピール（例 Nゲージの常設展示等も含め）

◇観光客増加することで市民のメリット可視化（例 ゴミ袋無料など）

◇余市と同様に養護学校を小樽にも設置してほしい

◇紙教科書を存続希望

◇クロームブックの毎日持参をやめてほしい

◇児童クラブを18:30までに←令和7年4月より変更

◇子育て世代に対してバス代補助

◇市や各町内、団体等で行われるイベント情報を1本化するなど、誰でも見やすい環境で提供希望

◇小学生のフッ化物洗口廃止

◇学生の通学時間に観光客もバスを利用するため、乗車できない状況を改善希望

ワークショップのまとめ

総務関係

- ・行政は縦割りだけでなく、目的に沿った横軸、横のつながりで動けるような体制が必要
- ・市役所の対応を市民目線でもっと丁寧にしてほしい

経済関係

- ・地場産業（水産業や製造業など）がしっかり稼げる実効性のある施策
- ・観光都市としてのメリットを市民が享受できる制度が欲しい
- ・既存施設を十分に活用すること、そのために維持管理の体制が必要
- ・市内でのイベント情報も含めた情報発信と市民が情報を取得するための選択肢の充実

厚生関係

- ・子育て世代の生活を支える施策を充実させてほしい
- ・町内会館をもっと市民の活動で使える仕組みと周知をしてほしい

建設関係

- ・公共交通は運転手不足も想定した中で、交通網や生活の足を確保維持するための検討をし、さらに見直しをしてほしい

その他

- ・若い人が市議会議員になりたいと思えるような仕組みや体制の議会にしてほしい

発表内容は上記の通り

第2回市民と議員の懇談会 概要報告

開催日時：令和6年11月16日 午後2時

開催場所：いなきたコミュニティセンター

参加者：公募市民（参加者数27名）

テーマ：人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり

「これからの小樽に必要なものは」

【ワークショップの概要】

ワークショップ：5班 ワークショップ会場 4号集会室	議員：5名 市民：5名
ワークショップで出た意見ややり取り ◇新幹線新小樽駅→市街地までの交通は大丈夫か。 ◇市内公共交通機関の路線維持や減便対策をお願いする。 ◇私立小学校誘致の可能性は。公立だけでなく、競争も必要では。（公立小中学校適正配置の現状等について説明） 特色ある私立の有地で全国から子どもや家族に来てもらえないか。 ◇不登校、学級崩壊、教員不足など学校の環境整備を。子どもが楽しく通える学校づくりを ◇通学路の除排雪、雪山の解消を始業式にとられずに早めをお願い。厚生関係・総合福祉センターの移転について通いづらいなど多数意見あり ◇町内会活動、全市の活動状況を把握し、何らかの支援を。地域によって活動に差があるようだ。近所との意思疎通に必要、コミュニティー作りに ◇街灯の整備を。暗い道が不安である。 ◇市内産科が足りない。安心して子どもが産める環境を小樽に。このままでは札幌への流出は止められない。（協会病院の役割や棲み分けについて説明） ◇将来を見越して介護職員の確保を。若い世代の職業体験などで働きかけも。 ◇子ども同士の関係性を作るコミュニティーの場があれば ◇小樽港をかつてのような商業港の活気を。後志の物産の窓口。（3号埠頭整備が進み一定の役割を果たし始め、ポートセールスにも力を入れてきている） ◇企業誘致を進めよう。塩谷トライアル出店で雇用が100～150人効果 ◇高卒者等への働き口確保を。起業のきっかけほしい。（商人塾の紹介） ◇観光振興の一環で明治以降の近代の歴史だけでなく、縄文、アイヌの文化も活用しよう。 ◇家の周りに公園が少ない。整備状況の確認や遊具充実を。特に中心部。（小樽公園再整備の紹介）バスケットゴール、街頭時計の設置を ◇市の除雪区域、量を増やせないか。その他、多岐にわたる話題 ◇自動車ナンバー、「おたる」ナンバーできないか。シビックプライドにも繋がるのでは。 ワークショップのまとめ 総務関係 ・不登校、学級崩壊、教員不足など学校の環境整備を。子どもが楽しく通える学校づくりを ・家賃、税金、民間除雪が他市より高い。家族がいる世帯などへの家賃補助などの施策	

望洋台では除雪業者への支払い昨年 55,000 円から今年 88,000 円になった。

- ・自動車ナンバー、「おたる」ナンバーできないか。シビックプライドにも繋がるのでは。

経済関係

- ・企業誘致を進めよう。塩谷トライアル出店で雇用が 100～150 人効果
- ・家の周りに公園が少ない。整備状況の確認や遊具充実を。特に中心部。（小樽公園再整備の紹介）バスケットゴール、街頭時計の設置を

厚生関係

- ・将来を見越して介護職員の確保を。若い世代の職業体験などで働きかけも。
- ・子ども同士の関係性を作るコミュニティーの場があれば

建設関係

- ・家の周りに公園が少ない。整備状況の確認や遊具充実を。特に中心部。（小樽公園再整備の紹介）バスケットゴール、街頭時計の設置を

発表内容は上記の通り

令和6年度 第2回小樽市議会「市民と議員の懇談会」 要望・意見（結果報告）

【総務常任委員会所管事項】

質 問	答 弁
人口減少対策～子育て世代が暮らしたくなる小樽のまちづくり 「これからの小樽に必要なものは」 ① 博物館について、電動の鉄道模型「N ゲージ」の常設展示などをおこなうことなど、鉄道の歴史をもっとアピールすることについて見解をお聞かせください。また、博物館で人気のある屋内鉄道模型などの鉄道展示について展示について、今後の展望をお聞かせください。 ② 子どもが不登校になると、多くの保護者は子供への接し方や学びの保障、仕事への影響など様々な悩みや不安を抱えます。そのような場合、保護者はどこに相談すればよいのでしょうか。子どもが楽しく通える学校づくりを希望しますが、全国学力学習状況調査の質問調査において学校に行くのは楽しいかとの質問に対して約2割の児童生徒が当てはまらない・どちらかと言えば当てはまないと回答しています。これについて市教育委員会の見解をお聞かせください。	① N ゲージの常設展示は財政的な処置も必要で、動く車両の常設展示のメンテナンスでの課題が多いことから難しいと考えます。以前は不定期で鉄道模型の愛好団体様のご協力を得て N ゲージよりも大きな H0 ゲージの鉄道模型運転公開などを実施しておりました。今後も鉄道模型の愛好団体様のご協力を得ながら公開の機会を設けていきたいと考えています。今後の展望については、将来的には全面的なリニューアルが必要と考えています。しかしながら多額の財政的な処置が必要な案件だとも認識しております。 ② 学校、市教育委員会の他、子ども家庭センターにおいて子どもの養育や成長、学校生活や人間関係に悩みを持つ保護者や子供などからの相談をお受けしております。子どもが楽しく通える学校づくりのために、市教育委員会として子どもたちがやらされていると感じるのではなく、主体的に学びに向かい、わかる喜び、できる喜びを実感することのできる授業づくりに取り組むとともに、ひとりひとりが互いの意見を尊重し、違いを認め合い励まし合い支え合う事の出来る人間関係作りに取り組むことが大切であると考えます。今後もひとりひとりに居場所があり、友達との絆を感じ合う事の出来る魅力ある学校づくりに向け、学校とともに取り組んでまいりたいと考えます。

令和6年度 第2回小樽市議会「市民と議員の懇談会」 要望・意見（結果報告）

【経済常任委員会所管事項】

質 問	答 弁
小樽市議会として、11月16日に開催した市民と議員の懇談会中で、「観光振興を図ることが市民生活の向上につながっていると感じられない」という趣旨の意見が複数ありました。 第2次小樽市観光基本計画にも「観光は、ふるさと小樽を支える基幹産業の一つですが、そのことについての市民一人ひとりへの周知は、まだまだ不足している。」という課題が記載されていました。 観光基本計画の中では、「観光振興を図ることは、観光需要の拡大、産業の多様化、雇用の促進など地域経済に活力を与え市民生活の向上につながる」、「小樽市民が、より能動的に観光に向き合うという『市民一人ひとりの自覚』が重要なファクターとなる」、「小樽に愛着を持つ市民が『おもてなしの当事者意識』を持つという意識改革を図り、市民が積極的に参加する取組を行う」ともされていました。 これらの取組の現在までの状況やその分析、必要に応じた取組内容の見直しについてお示してください。	小樽観光大学校が実施している小樽案内人検定の受験者が一定程度増えています。 また、市政100周年や運河100周年をきっかけに若い世代が積極的にイベントを企画して小樽観光を盛り上げる動きが見られました。 このようなことから市民が積極的に観光に参加する意識が高まっているものと分析しています。 また、小樽観光協会の方で小樽おもてなし企画認証制度を創設して、初年度は18の事業者、29の施設が認定を取得したことから、おもてなしの心を持って市民が観光客を迎える意識の醸成につながっていると考えています。 しかし、市民の自覚と言いますか、観光に寄り添う感覚といったものが不足していると日常業務を通じて感じています。 これは、市の情報発信が不足しているものと認識しており、今後は観光基礎調査や観光動態調査など、これまでの取組で推計された経済波及効果を、例えば広報おたるなどを通じて、専門的な言葉ではなくて、より市民が理解しやすいような表現や紙面の工夫などを通じてお伝えするなど、小樽市民がより能動的に観光に向き合えるような情報発信の取り組みを進めてまいりたいと考えております。

令和6年度 第2回小樽市議会「市民と議員の懇談会」 要望・意見（結果報告）

【厚生常任委員会所管事項】

質 問	答 弁
①ファミリーサポートセンターについて、取り組みとして評価される一方で、仕組みが浸透していないように思われるというご意見について本市の認識を伺う。	①ファミサポにつきましては依頼会員と提供会員による組織であるため、利用する際になって知るということも多いのが現状である。子育て支援アプリや、乳幼児検診の際などに周知を進めているが、今後一層の周知拡大に向けて努める。
②いずれ自分も介護を受ける立場になるが、そうなった時でも小樽で住み続けられるかが心配というご意見、また介護職員の人材不足に対して、若い職員の確保策に関して、本市としての取り組みを伺う。	②介護の人材不足解消については、未来の介護職員の育成に向けて、施策展開をしていく。若い世代に対して介護職のイメージアップに繋げるためにも、R7年度から新事業を行う予定であり、中学校・高校とも連携をしていきたい。
③町内会館の更なる活用がなされるようにというご要望がありました。会館の予約など利用方法を広く周知してほしいというのが一つ。この点は総連合町会等に対してお伝えいただくなどしてほしいがどうか。	③会館の利用はその町会ごとに予約の方法等も異なるため、仕組みを一元化することは難しいが、総連合町会を通じて利用促進について議論をしていきたい。
④また、町内会の活動に地域差があるため、市として何らかの支援をしていただきたい。金銭的な補助に限らず、高齢化による人手不足の対策や運営の仕組みなどについて、好事例を他の地域に伝えるという対応などもあるが、市の現行の取り組みとこれからの展望について伺う。	④R6年度から、イベントの開催や防災の取り組みに対する補助も始めたところ。また、市のHPにおいて町会活動の紹介も行なっており、引き続き町会活動に対しては支援を行なっていく。

令和6年度 第2回小樽市議会「市民と議員の懇談会」 要望・意見（結果報告）

【建設常任委員会所管事項】

質 問	答 弁
[令和6年第4回定例会] ・遊び場の充実。親が遊ばせたいと思う公園が無い。天候に関係なく遊べる公園が欲しい。 ・市内の大きい公園の整備、手宮公園緑化園が荒れている。 ・家の周りに公園が少ない。整備状況の確認や遊具の充実を。特に中心部。バスケットゴール、街頭時計の設置を。	・現在進めている小樽公園の再整備では全市民対象にアンケートを実施、住宅街の公園では町会や小学校に遊んでみたい遊具の調査を実施しています。天候に関係なく遊べる遊具を設置する施設には、小樽公園以外の施設を整備する予定はありません。ウイングベイにある民間運営施設や運動が出来る施設とし、総合体育館の一般開放が考えられます。 ・手宮公園の草刈りは園路際と遊具広場、緑化園は年2回実施しており、年1回から増やしている段階です。しかし充分行き届いていない部分もあるかと思います。 ・市内には街区公園71か所、近隣公園11ヶ所、地区公園6か所、総合公園3か所、都市緑地2か所の93か所あり、古くなった遊具やベンチを更新し充実させ魅力ある公園にして行きたいと考えています。バスケットゴールは市内3か所に設置しており、偏在はしていないと考えます。公園内に設置されている時計は町内会や寄付により設置されているものになり、今後公園の利用状況や要望が多い公園については、時計の設置も検討していかなければならないと考えております。

・空き家対策として、尾道市のガウディハウス(古民家をリノベーションした尾道の空き家再生のシンボル)を参考にしたら良いのではないか。空き家をアーティストにリノベーションしてもらうなどについて。 ・市と不動産会社が希望者に市内の空き家ツアーをしてみてもどうか。 ・空き家の活用として、空き家を市が借り上げて貸すのはどうか。 ・雪が降る時期がずれて早まっている。貸出ダンプの利用時期の前倒しを。 ・除排雪が不十分、昔は重箱をつつく感じだったが、今はサラッとやって排雪回数も少ない。それが原因で引っ越した人もいる。対策強化を求めたい。 ・市の除雪区域、量を増やせないか。	・本市では歴史的建造物を活用した事例が多数あり、尾道のように古民家のリノベーションを行うことは想定してはいませんが、尾道の様々な取組から効果の見込める取組は採用にむけて研究してゆきたい。 ・空き家を含めた不動産が欲しい方には、道の空き家バンクや不動産業者提供の情報により建物の情報を得る事が出来ると考えられますが、尾道市が行っている取組のなかで、本市にとって効果が見込める取組については調査研究をしたい。 ・本市が空き家を借り上げて貸したり、購入希望者へ売買するという事について、活用されるまで市で財産の管理をしてゆくことなどから、体制や財政的な面でも難しいものと考えています。 ・利用時期の変更については、業者との調整が難しい面があります。加えて利用団体の減少や登録業者数の減少など課題は山積みしており、貸出ダンプ制度の抜本的な見直しが必要だと考えています。 ・市が行う地域総合除雪では、各市道に対して排雪路線を位置付け、限られた予算の中で作業を行っています。そのような背景を踏まえた上で、市民の皆様が安心快適に冬の生活を送れるよう取り組みます。 ・地域総合除雪では、7つの区域に分けて除雪作業を進めております。私道や重機が入り込めない狭隘な場所が点在し、地域総合除雪で実施することは困難な状況です。引き続き市民の皆様の御意見を踏まえ、雪対策基本計画などを基に除排雪の在り方を検討します。
--	--

[担当課へ聞き取り] ・ 暗い道が不安なので、街路防犯灯の整備をお願いしたい。 ・ 立地適性化計画の市民理解について。 ・ 新幹線小樽駅→市街地までの交通は大丈夫か	・ 街路防犯灯は夜間の治安維持、交通安全を図る役割があります。市内には約14,000灯が設置され、設置と維持管理は、町会や商店街などが行っており、本市は各団体へ設置費や維持費を補助しています。地域の安心、安全を守り続けるために街路防犯灯は必要不可欠であると考えており、今後も町会等に対する支援を継続していきます。 ・ 立地適正化計画は、将来の人口規模等に適応し、先人から引き継いできたこのまちを、次の世代に責任をもって引き継ぐため、将来目指す都市構造とその実現のため取組を示し、40年先の将来を見据えた長期的な時間軸の中、緩やか無理のない形で、段階的に居住等を一定の区域内に集約して行こうとするものであります。計画に対する市民理解を深めるため、計画内容を広く市民に周知し続けることが必須と考えており、広報おたるや市ホームページへの掲載、都市計画課窓口での掲示、パネル展の実施、不動産や建築関係の団体への周知なども行ってまいりたいと考えております。 ・ 新駅の2次交通対策とし、現在（既存）の路線バス（奥沢線）の活用や、新駅と市内中心部（小樽駅や南小樽駅、小樽築港駅など）を結ぶ専用シャトルバスの運行、持続可能な運行体制の構築など、利便性の高い2次交通網の構築に向け、官民が一体となって具体的な検討を進めていくこととしています。また市では、交通事業とまちづくりが連携した「小樽市天神地区交通戦略」を令和6年11月に策定しました。現在、バスやタクシーの運転手不足の課題解決に資する自動運転等のICT活用策に関する調査・研究を進めております。実際にバスの運行路線等が決定するのは、新幹線開業の数年前に行う利用者ニーズ調査や需要・採算性の検討等を踏まえて、開業直前（開業年度）となる予定です。
---	--

令和6年度 第2回小樽市議会「市民と議員の懇談会」 要望・意見（結果報告）

【担当課への聞き取り分】

質 問	答 弁
●担当課への聞き取り 1. 立地適性化計画の市民理解について	本市の国の推計による20年先、さらには40年先の将来の人口規模等を鑑みると、このままの市街地の広がりでは、これまでどおりの除排雪などの公共サービスの維持が困難になるものと考えられます。 ・立地適正化計画は、こうした将来の人口規模等に適応し、先人から引き継いできたこのまちを、次の世代に責任をもって引き継ぐため、将来目指す都市構造とその実現のため取組を示し、5年、10年の短中期的にではなく、40年先の将来を見据えた長期的な時間軸の中、緩やか無理のない形で、段階的に居住等を一定の区域内に集約して行こうとするものであります。 ・また、本計画は、従来のように行政が主体となって、具体的なルールや制限を設定して計画的に導くものではなく、無理のない範囲で、自身のライフステージに応じて適切な居住環境を選択していただくことや、身近な生活サービス施設や公共交通の利用を心掛けていただくなど、住民との協働を通じて目指す都市の姿を実現していこうとするものであります。 ・こうした計画に対する市民理解を深めるためには、計画内容を広く市民に周知し続けることが必須と考えており、その過程では、情報を分かりやすく発信することに特に注力し、市民が理解しやすい形での提供に努めていきたいと考えております。

2. 新幹線小樽駅→市街地までの交通は大丈夫か	・そのため、まずは、計画策定後、一定の周知期間（３か月程度）を取り、広報おたるや市ホームページへの掲載、都市計画課窓口での計画内容等の掲示などに加え、公共スペースなどにおけるパネル展なども実施したいと考えており、併せて、不動産や建築関係の団体への周知なども行ってまいりたいと考えております。 「おたる新幹線まちづくりアクションプラン」※では、新駅の２次交通対策として、現在（既存）の路線バス（奥沢線）の活用や、新駅と市内中心部（小樽駅や南小樽駅、小樽築港駅など）を結ぶ専用シャトルバスの運行、持続可能な運行体制の構築など、利便性の高い２次交通網の構築に向けて、官民が一体となって具体的な検討を進めていくこととしています。 （※ 北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会（官民連携組織）において令和３年３月策定） ・また市では、アクションプランの取組内容に即す形で、交通事業とまちづくりが連携した天神地区の交通施策を定めた「小樽市天神地区交通戦略」を令和６年１１月に策定しました。 ・現在、持続可能な運行体制の構築に向けて、バスやタクシーの運転手不足の課題解決に資する自動運転等のＩＣＴ活用策に関する調査・研究を進めております。 ・実際にバスの運行路線等が決定するのは、新幹線開業の数年前に行う利用者ニーズ調査や需要・採算性の検討等を踏まえて、開業直前（開業年度）となる予定です。
--------------------------------	---

**第2回市民と議員の懇談会に参加された
皆様へのアンケート**

～結 果～

参加者27名・アンケート回収20名（回答率74％）

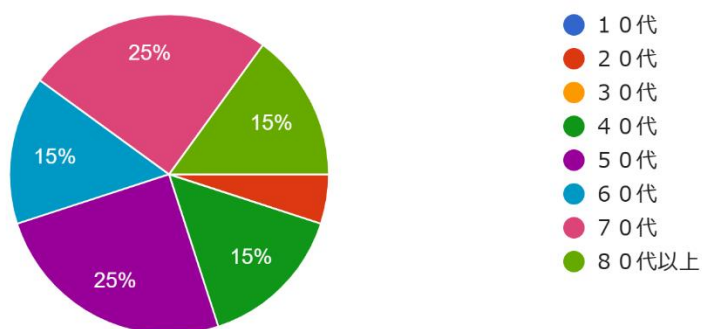
令和 6 年第 2 回「市民と議員の懇談会」アンケート結果

参加者 27 名

アンケート回答者 20 名

問 1 年代について

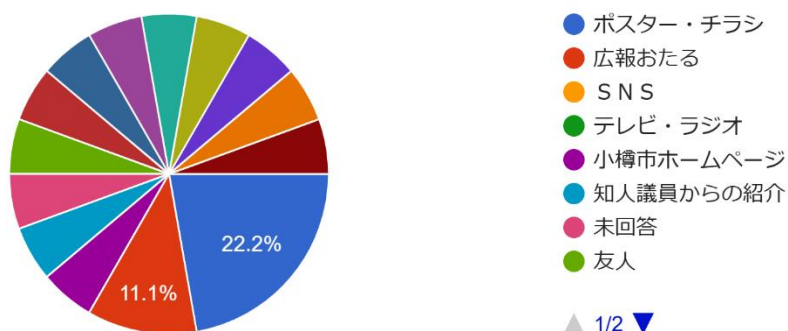
20 件の回答



- ・ 20 代 1 名(5%) ・ 40 代 3 名(15%) ・ 50 代 5 名(25%)
- ・ 60 代 3 名(15%) ・ 70 代 5 名(25%) ・ 80 代以上 3 名(15%)

問 2 「市民と議員の懇談会」を何で知りましたか

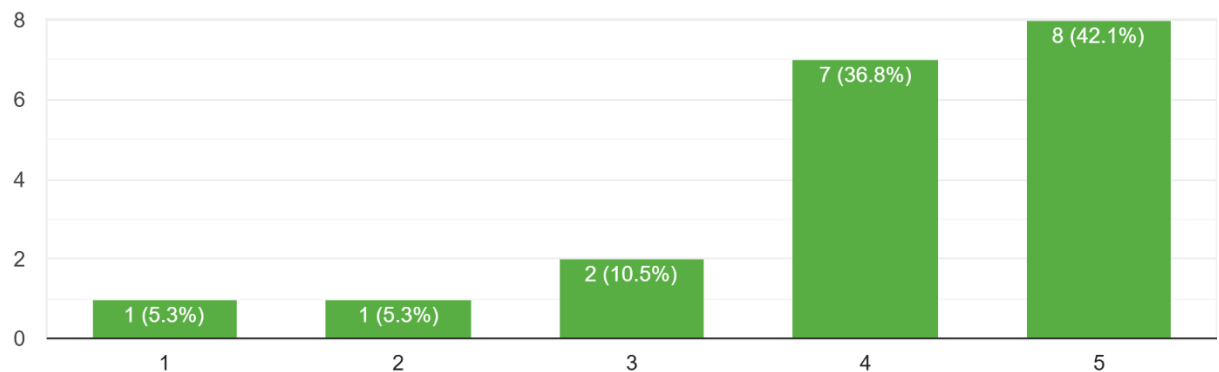
18 件の回答



- ・ ポスター、チラシ 4 名(22.2%) ・ 広報おたる 2 名(11.1%) ・ 市 HP1 名(5.6%)
- ・ その他 議員からの声掛け、町内会、友人からの声掛け、未回答

問3 進行・ワークショップについて

19 件の回答



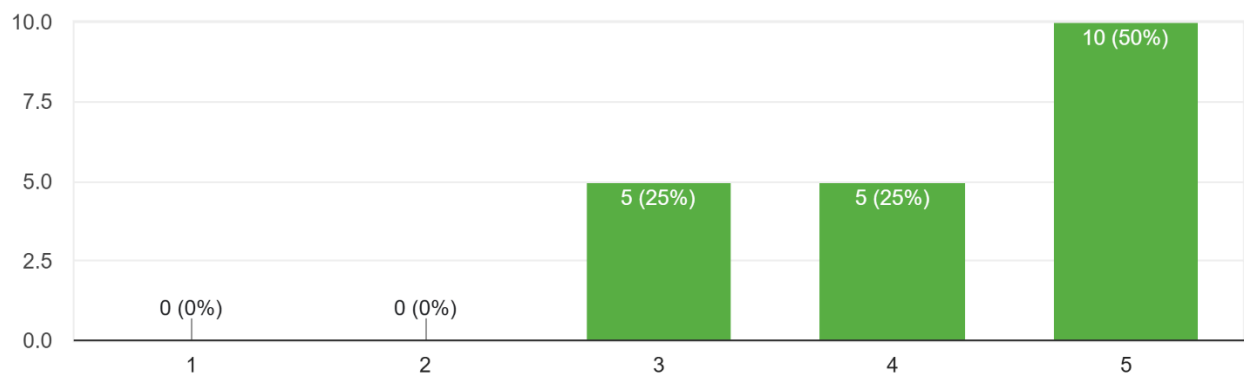
進行・ワークショップについてのご意見をお聞かせください

11 件の回答

- ・学びが少なかった。
- ・市民からの意見について、現時点でどれほど実現可能性があるかをもう少し詳細に知りたいと感じた。
- ・皆さんそれぞれ違う目線での話しを聞いたので面白いと思いました
- ・皆、ルールを守って良かった。
- ・スムーズにいろいろと参考になる中身の濃い応答が行われた。
- ・市民の声を大事にして頂きたい。貴重な時間なのに笑って聞いている態度もどうかと思う。
- ・有意義な意見・共感できる意見が沢山出ていて、聞くこと、知ることができて良かった。
- ・色々な意見を聞けて勉強になりました。思っていることはだいたい皆さんに同じ感じがしました。
- ・色々な話を聞かせてもらい、勉強になりました。
- ・少数での対話なので皆さんの意見が効けて良かったと思います。
- ・進行の進め方は良かったが、最後のまとめ報告では、ワークショップで貴重な意見が上手く報告されていなかった。もったいないなと思った。 また、この懇談会の報告書のような冊子は作成されるのだろうか。結果を周知してほしい。

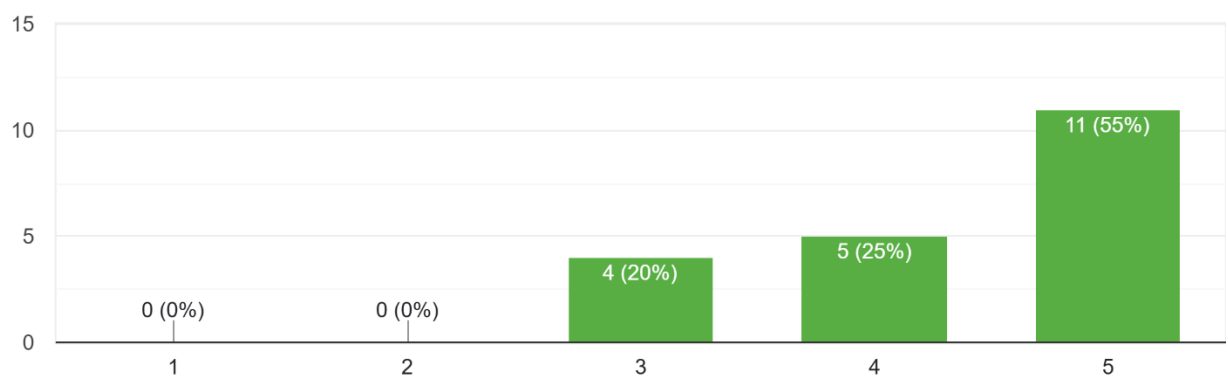
問4 開催日時について

20 件の回答



問5 開催場所について

20 件の回答



開催日時・場所についてご意見をお聞かせください

6 件の回答

- ・議場で開催するのも一興。
- ・縦長の会場よりは横長の方が良い。縦長だと議員さんと対峙するので幅がやや狭く感じたり、横長だとややオープンな感じがあるのでは？
- ・開催場所を市役所・市民会館で希望します。
- ・いろいろなパターンで開催すれば様々な方が参加できるのでは
- ・当日参加も OK にしてほしい（申し込みに間に合わなかった人のために）
- ・子育てに関わることを話す又は意見を聞く場を考えたほうが良い。若い人がいる場所に出向いて会を開いた方が良い。子供は遊んで親が懇親会に参加できる環境でやった方が良い。

- ・この時期は色々な催事があるため、開催時期に考慮してほしい。

問6 今後の「市民と議員の懇談会」に、どのようなないよう内容を希望しますか

13 件の回答

- ・「住民の要望を受ける」場なのか？あるいは少し長いスパンで「まちの骨格を考える」場なのか？後者の比重を高める場であってほしいと思う。
- ・子育て世帯や学生など、特定の属性の市民に焦点をあてた内容
- ・小樽に転入して3年未満の会 とか良い所悪い所を率直に聞けそう
- ・子供、若い方の意見を聞いてください。
- ・とりあえず今回の形態を維持して進めてほしい。
- ・市の生産性向上のためのものがあればよい。
- ・市民の生活、声に耳を傾けてほしい。交通の便については深刻です。給料を上げたり休みをしっかりと取ってもらって人員を保ってもらいたい。足がなくなるのは困ります。
- ・毎回出ているであろう問題点、疑問、提案等そのままにせず、結果や進捗状況を報告してほしい。
- ・内容というより、話し合うメンバー。高校生も含めた10代、20代にも声をかける。高校生も潮陵、桜陽を中心ではなくいろいろな学校の子供、学校に行っていない子にも声をかける。
- ・小樽に住んでいなくても小樽でも仕事をしている人も対象にしてほしい。
- ・若い子にどう小樽のことを伝えていくか
- ・子供といっしょに参加できる様に
- ・会議業務に支障のない、月日時で今回は初参加でしたが、市民の生の声が届くことがあれば良いと思い、必ず少しでも達成していくことを希望します。
- ・ワークショップで小樽市の人口減少について、色々な意見が出ていた。市は色々取り組んでいるようだが、その成果が見えてこない。今一度、小樽の現状を把握し、人口減少をくい止めるための打開策みたいな意見交換会

問7 議会に関する情報をどの様に手に入れていますか。また、どの様にすれば議会の情報を知られると思いますか。（重複した意見もそのまま掲載）

11 件の回答

- ・紙の広報誌による発信だけでなく、SNSやYouTubeによる発信は今やあたり前。現状ではそれらも見たいと思わせるものにはなっていない。もっと研究、実践すべき。
- ・市のホームページやYouTube

- ・「広報おたる」「議会だより」で情報を入手。議会、委員会傍聴は見学のためのバス運行は？
- ・広報紙
- ・市議会だより、おたるジャーナル。SNS、YouTube ・本当に知りたかったら受け身ではなく知りに行く
- ・新聞をとっていない家にどう伝えるか、ここの工夫が必要だ
- ・市議会だより
- ・SNS や広報紙も大事ですが、子育て世帯は子育てに関する事しか見ない。なので子育て世帯が集まるところに知らせる。来てほしい人の集まりそうなところへ知らせる
- ・新聞、ホームページ
- ・市議会だより。今後 SNS 等での発信をしてわかることが必須
- ・広報誌から。議会でのやりとりをユーチューブで配信されていると言われているが、市民がどれだけ把握しているのか、疑問に思う。一方通行ではないか。広報誌では、紙面に限りがあるのか、ないのか分からないが、もっと読んでもらえるような議会報告にならないものか。

問 8 その他、今回の懇談会や市議会に対するご意見、ご提言があればご記入ください。

9 件の回答

- ・申し訳ないけど、議員の質のレベルが低い。例えばきょうの懇談会のワークショップで私が入った班には4人の議員がいたが、自らノートを持って来て記録を取っていたのはたった一人。ほかは配布資料の余白にメモする程度。これだけ見ても、お里が知れる。
- ・外から言われよく聞く「魅力度の高い小樽」に安心してはいけない。市民の満足度とはかけ離れていると感じる
- ・投票率 UP に知恵を絞ってほしい。①スーパーなどに臨時投票所 ②移動（車）での投票を ③他
- ・きっと何回やっても同じ意見ばかり出るが何の解決もされない。ここ 20 年何も変わってない。これからも期待できない諦めがある。20 年前は子供出産数 800 人が今 400 人弱。何も対策してこなかったから
- ・直ちにお答えできずすみません。これからもこの様な機会があれば是非参加したいと思います。グループの進行もスムーズで色々な意見が出、参考になりました。また、意見を出す方も、応えてくださる市議の方々も真摯な態度に感謝します。

- ・議員だけが飲み物持参していて、声掛けくらいしてもらいたい。議員は市民の目線じゃないのか（怒）
- ・市議の皆様、9割弱姿勢が悪い（笑）眠そうな方がチラホラ。見られている意識高めに美しくしてほしい。最後に発表する議員を見ていて、意見発表に関してはリアルに感じていない。と、下手ですね。
- ・子ども時代、小樽で過ごした経験のある子たちが大人になって、また小樽に戻って生活したいと思える街になるといいなと思いました
- ・市職員が幹部（課長以上）は、市民をバカにしている姿勢が強くみられる。真剣に仕事をしてほしい。
- ・テーマが子育てしやすい町づくりだったと思うが、現在子育て中の親の参加が少ない。開催時には、託児室を設け参加しやすい環境を作って、幼稚園、保育所、学童保育所に周知に努めて欲しい。